

風水害への備えは万全ですか？

毎年、台風や大雨により全国各地で大きな被害もたらされています。しかし台風や大雨は、正確な気象情報を収集し、予想される事態へ備えておくことで、被害を最小限にとどめることができます。

梅雨に入る前に、家のまわりや近所の危険と思われるところを確認し、家族で安全対策について話し合っておきましょう。



しようぼうの広場

火災、救急、救助は・・・

119

家のまわりや地域の危険箇所をチェック

風水害から身を守るためには、日頃から家のまわりの様子に目を配っておくことが大切です。窓や屋根、雨どいや側溝、擁壁などを点検し、壊れているところがあったら早めに修理をしましょう。また、住んでいる地域ではどのような災害が発生しやすいか、どこが危険箇所なのか、知っておくことも大切です。特に河川の近くや、がけ地など、災害が起こりやすい所には近づかないようにしましょう。

避難場所や避難方法を話し合っておく

いざというときの家族の役割、避難場所や連絡方法などを日頃からよく話し合っておき、避難勧告や指示が出されたとき、身の危険を感じたときは、近くの避難所へ速やかに避難しましょう。

特にお年寄りや子供、病気の人もなどの災害弱者に対しては、隣近所で助け合いながら避難しましょう。

※避難場所については、各家庭に配布された「さつま町防災マップ」でご確認ください。

お詫言と訂正

さつま町（薩摩地域）防災マップ地図中の避難場所の名称に誤りがありました。

- ・誤 薩摩小学校
 - ・正 薩摩中学校
- お詫言して訂正いたします。

気象情報に注意する

ラジオやテレビなどの台風や大雨に関する気象情報は注意深く聞き、早めに備えることが重要です。特に土砂崩れやがけ崩れ、河川の氾濫などの恐れがある地域では、台風や大雨の情報をキャッチしたら、いつでも避難できるように準備しておきましょう。

非常持出品を確認する

家族構成を考えながら、貴重品・携帯ラジオ・懐中電灯・非常食品・医薬品・衣類などを日頃から準備し、万のときにはいつでも持ち出せる場所に備えておきましょう。また定期的に新しいものに入れ替える必要があるものは、保存状態や使用期限をチェックし、新しいものに入れ替えましょう。



災害に強いまちづくりを

規模の大きな災害が発生した場合、電話の不通、道路事情の悪化などにより、町や防災機関による救出・救護などの防災活動が十分に果たせなくなることを考えられます。このような事態では地域の協力が不可欠となります。「自分たちのまちは自分たちで守る！」という強い連帯意識を持ち、地域防災活動に取り組む、災害に強いまちづくりを進めていきましょう。

消防一口メモ

カビより梅がいい

梅雨の語源には色々な説がありますが、一般的には梅の実が熟する頃降る雨がらきているといわれています。また、この頃は湿気が多くて黴（カビ）が生えることから昔は黴雨（はいう）と書かれていたのですが、語感が悪いので梅雨という言葉に改められたという説もあります。梅雨を「つゆ」と読みだしたのは江戸時代くらいからです。食中毒（かび）の発生しやすいこの時季、お弁当には殺菌・抗菌作用のある梅干しを添えて！

4月の救急・火災情報



救急		火災	
◆ 出動件数	69件	◆ 発生件数	0件
◆ 運んだ人	65人		
◆ 内訳			
病	35件	32人	
交通事故	7件	8人	
その他	27件	25人	